

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホーム集い		
所在地	秋田県能代市字高埜58-8		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、利用者の皆様が安心して生活ができるよう心掛けていると共に、利用者の皆様がご自身で出来る事を見出せる支援が出来るよう努めたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般住宅のモデルルームとして建てられたホームは、各居室の特徴が異なり、まるで自宅の部屋にいるような錯覚を覚える。国道7号線を挟んだホームの真向かいには、能代山本地区では最大級、能代市では初めての21店舗が隣接するショッピングモール「アクロス能代」の存在があり、買い物には非常に便利で羨ましい限りである。スタッフ同士が互いの思いや意見の違いを出し合える関係にあり、情報交換時には、ホーム内のあらゆる場所を活用し小声で話す等、プライバシーに最大限配慮していることが伺える。「利用者さんと話してる時が自分にとっては、最も楽しい時間です。」との管理者の言葉が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を意識・共有し、利用者様が過ごしやすい環境を提供出来るよう努めている。	ホームの玄関には、(有)クラウドの3つの企業理念が掲げられ、開設時に作成された地域密着型サービスの意義を踏まえた「やさしさ」と「まごころ」から始まるホームの理念も確認できた。	開設後16年が経過しており、BS法等を活用し、現時点でのホームの目指すべき理念作成に全スタッフで取り組むよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周りが商業施設という事もあり、地域の皆様との交流が持てずにいる。緊急時の協力は依頼しているものの交流に関しては努力が必要。	ホームの真向かいには、21店舗が隣接する大型ショッピングモールがあり、買い物に出かけては知人とあいさつを交わすとのこと。隣接の高等学校に協力いただき、日常の散歩コースとして高校敷地内を活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	外部との交流に努力が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催数が足りない為、2か月に1回開催を確実にします。	定期的な開催が難しいという前回の評価結果を踏まえ、この11月より2ヶ月に一度の開催を計画していることが確認できた。町内会長や民生委員等の地域住民の参加が困難であり、市担当者や家族及び利用者が参加している現状にある。	地域という観念をもう少し幅広く捉えることで、地域包括支援センターや福祉関係者あるいは住民等々、まずは管理者なりに地域の方々の参加促進に取り組むよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ交流をもち、相談事があれば協力してもらえる体制をとっている。	市担当者とは、運営推進会議の他、日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。今後は日頃から連携している地域包括支援センターにも運営推進会議への参加を呼び掛けたいという意向が確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束の指針等を記載しホームの方針を説明し、理解して頂けるよう努めている。職員に対してはマニュアルを準備し、いつでも観覧できるようにしている。	身体拘束防止を含めた各種研修を今以上に計画的に実施したいとの前回の評価結果を踏まえ、地域の他のグループホームで開催された「身体拘束について」の研修にスタッフ2名を派遣し、伝達研修を実施している。また全家族に郵送で最新の身体拘束防止に向けた情報を提供するなど徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からくる書類等で理解するよう努めているが研修等に参加し学ぶ機会が持てるよう改善する必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政からくる書類等で理解するようしており解らない事は市役所の担当の方に聞いたりしている。研修の機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用いて十分な説明を行い理解して頂けるまで話し合うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口、意見箱はあるが苦情・意見等があがってこないのが現状。家族より口頭で意見が出される事がある為、その情報を職員間で共有し、サービス向上に努める。	要望や疑問点、意見があれば電話で連絡してくれる家族が殆ど。スタッフの対応が家庭的で、明るく態度が一貫していることが家族からの信頼につながっている。	訪問した家族の目に付く場所に、スタッフの顔と名前がわかるような工夫をするよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や休憩時間を利用し話し合いの出来る環境作りをしているが、反映されるまで時間がかかる。	スタッフ同士が互いの思いや意見の違いを双方出し合える環境にある。経験豊富な管理者の提案で、より休養を効果的にしようと、勤務ローテーションの変更を試みた結果、スタッフからは好評であり、今後も互いの意見や提案を吟味し運営に反映するよう期待します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望については希望に添えるように努めている。 職場環境・給与水準については、代表者と話し合いが持てるように努めているものの現実には厳しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内がくれば受講出来るように配慮はするが、勤務を優先してしまい、受講できないのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者と交流があるものの、職員に関しては、個人的に交流はあるものの、ホームとしての交流はない為改善する必要がある。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が不安や悩みを職員に気軽に相談出来るようコミュニケーションを大事にしている。また、家族様より得た情報を支援に活かすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談・話し合いが出来るような関係・環境作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとることにより、その人に合った家事支援等を提供し、自分が必要されているという意識を持っていただくよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の関係を大切にしながら、強制的にならないような形で支えて行けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等が気軽に訪問できるような環境作りに努めている。	計画作成担当者が、友人や知人も気軽にホームを訪問して欲しい旨を毎月家族に発行する手紙の中に記載しており、家族との連絡調整を密にすることで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等の把握に努めており、些細なトラブルが起きたときは、利用者同士で解決出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談できる関係作りに努めている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームのルールを守りながら出来る限りご本人の意思を尊重している。	利用者が座っているソファの横にスタッフも同席し、出来る限りゆっくりと互いの共有時間を持つよう努めている。「利用者さんと話してる時が自分にとっては、最も楽しい時間です。」との管理者の言葉が印象的である。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活状況や趣味等の情報を把握し、職員間で情報の共有を図るよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の過ごし方や心身の状態を観察すると共に日々の変化を把握できるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で疑問に思った事等は、ご家族様に確認し、個々の自立度や低下度等を観察し、ご家族の来訪時に近況を報告し介護計画を作成している。	月毎に利用者のカンファレンスを設定し、話し合いの中で本人や家族、スタッフの思いや気づきを共有し、介護計画に反映させるよう努力している。介護計画に対する家族記載欄にはかなりの確率で家族からの記載が確認できる。その殆どがホームが本人にとっての生活の場として定着していることへの感謝の言葉である。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化等を記入することで情報の共有はできており、職員会議等で気づいた事を話し合い、計画に反映されるよう努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出等定期的にはできておらず、外出できる利用者も限られている為改善の必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医への通院、往診をうけ、利用者の状態を相談し必要に応じてご家族に報告し家族様の判断を仰ぐようにしている。	家族の希望で以前からの病院に家族付き添いで通院している事例も確認した。病院から直接薬局にFAXで処方内容を送信でき、薬局の判断で複数の処方を一包化する等の協力関係を構築している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護を利用し個々の健康状態を報告し、必要であれば、受診している。また訪問看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連絡をとり話し合いは出来ているが、状態が重症化の場合は医師よりグループホームでの生活にストップがかかる事がある。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご家族様の希望を伺い話し合いを持つようにしている。ホームで出来ることを納得していただいたうえで方向性を決め訪問看護・協力医の往診等で対応・支援している。	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に基本的事項について説明し、同意を得ている。ホームの方針で看取りは実施していない。全利用者が訪問看護ステーションのサービスを利用している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に防災訓練や救命訓練を実施している。またマニュアルを作成いつでも観覧できる環境を作っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は定期的の実施しているが、地域との連携が取れていない為、働きかけが出来る環境作りが必要。	前回の評価結果で、そもそもが一般向け住宅であったという構造上のリスクや、二階の一時避難所からの避難方法の明確化という課題が取り上げられ、早速、避難訓練終了時に消防署よりアドバイスを受けていることが確認できた。向いの大型ショッピングモールの駐車場は緊急避難時の集合場所となっている。	一般向け住宅という構造上のリスクや、二階の一時避難所からの避難方法につき、今後とも消防署からアドバイスを受け、対応の再検討を継続するよう期待します。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮しているつもりでも、過ごす時間が長くなるにつれ遠慮がなくなってしまう為、気をつける必要がある。	利用者の個人的な情報交換をする際は、ホーム内のあらゆる場所を活用しながら、小声で話す等、周囲に聞こえないよう配慮していることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断が出来る方にはしていただき、出来ない方には職員決定してしまう為自己決定ができる方向に持っていけるよう努力する。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで過ごして頂けるように努めているが、職員側で優先してしまう事もある。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的にホームへ専門職に来訪していただき、身だしなみを整えている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の誕生日等は食べたいものを聞き提供している。片付けは、個々の状態を見ながら職員と一緒にやっている。	誕生日対象の利用者には食べたいものを聞き取りして提供しており、前は手作りのオハギを提供したとのこと。盆・正月はおせち料理、土用の丑の日にはうなぎを提供する等、料理の得意なスタッフの出番とのこと。おしぼり準備や食器拭き等、利用者はそれぞれできることで参加している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し毎食ごとに記入しているため、接種状況を職員全員が把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分でできる方には声がけし行ってもらい、出来ない方にはケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を記入している為、個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	A4サイズ用紙に全利用者1日分の、食事・服薬・水分補給・バイタル・排泄・入浴・口腔・爪切り・耳垢等に関するチェックシートが採用されている。チェックされたデータは個人ファイルに転記され、個々の排泄の自立に向けた支援につなげている。また、同性介助を厳密に実行している。	トイレの入り口が狭く、車いすでの利用や介助が困難な状況である。スライド式のドア等の採用などにより入口の幅を拡げ、危険の無い動作が出来るよう対応が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを確認し、利用者様にも確認し便秘になる前に主治医や訪問看護師に相談している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態をみて各自週2回入浴できるよう支援している。	本人の眠気や体調に合わせて時間を変更しながら入浴している。億劫がる場合はあの手この手で入浴してもらえるよう工夫し対応しているが、入浴後は気持ちいいと喜ばれる方が殆どとのこと。気持ち良く入浴していただけるよう花の香りの入浴剤を活用している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の睡眠状況を把握し、ゆっくり休んで頂けるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等通院ノートに記入し職員が確認出来るように事務所内に処方箋と一緒に置いている。服用後の観察やご本人への言葉がけをし、副作用等に注意している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせた役割を持ってもらえるようにし、充実した日々が過ごせるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物に出かけられるよう努めている。家族様と利用者様の交流は、保たれている。	国道7号線を挟んだホームの真向かいには、能代山本地区では最大級、能代市では初めての21店舗が隣接するショッピングモール「アクロス能代」の存在があり、買い物には非常に便利であり羨ましい限りである。ホームの目の前が国道7号線で車の往来が多く、隣接する高校の理解を得、高校敷地内が日頃の利用者の散歩コース。通院の帰りはドライブがてらソフトクリームやババヘアアイスを食べることが人気とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・家族様の希望に応じている。 現在利用者様本人で管理している人はいない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が出来るようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気作りに努めている。不備な点もある為改善する必要もある。	ごく普通の自分の家にいるような雰囲気を目指しているとのこと。早番による廊下清掃の他、当番制で清潔保持に取り組んでおり、気になる臭いや刺激は一切感じられない。共有空間はあえて一般家庭のようにあまり多くの掲示をしないよう配慮しているのはこのホームの特徴といえる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中リビングで過ごされる方が多く、自室で過ごされる利用者様については、巡回を兼ね雑談等をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族様には使い慣れた物の必要性を説明し、家族様の負担にならない程度にご持参していただけよう支援している。	室内は大きな窓があり、明るさが保たれている。そもそもが一般住宅のモデルルームとして建てられたことから、各居室がそれぞれ特徴が異なり、それこそ普通の住宅の普通の居室そのものであり、まるで自宅の居室にいるような錯覚を覚える程である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を保つため手すりを付けたり、整理整頓に努め転倒等を予防している。また、居室・トイレの場所を忘れてしまう方もいる為ドアに張り紙をして表示している。		